

中世の随筆・説話集の形容詞

村田 菜穂子*¹ 前川 武*²

Adjectives in Essay and Narrative Collections in the Middle Ages.

Nahoko Murata*¹ Takeshi Maekawa*²

キーワード

形容詞、中世、随筆、説話、語彙表、語彙史

I はじめに

語彙研究および語彙史研究の立場から、これまで上代から中世に亘る日本語形容詞・形容動詞語彙について、〔1〕語構造論および造語論の両観点から分析を行って、一つ一つの語の語構成を記述するとともに、〔2〕当該語彙の史的研究のための基礎資料としてさまざまな語彙表をこれまで作成・公表してきた。^(注1) また、一方では、語彙研究および語彙史研究分野の進展のための有益な資料となるべく、〔1〕および〔2〕の情報を蓄積したデータベースシステムを構築し、本資料を基にコンピュータによる量的データの分析的研究・実証的研究を行い、最終的には、「形容詞の語構成史」および「形容動詞の語構成史」を築き上げて、従来の研究方法では得られなかった知見を得ることを目標にこれまで研究を進めてきた。^(注2)

中世後期から近世にかけての言語資料については、まず、中世後期の形容詞を概観する資料として、『時代別国語大辞典 室町時代編』と『邦訳 日葡辞書』を取り上げ、同辞典・辞書に採録された形容詞の一覧を作成し、次に、中世後期から近世初期に用いられた形容詞の使用頻度等について調査すべく、「狂言の台本」5作品および「キリシタン資料」4作品を取り上げて対照語彙表を作成した。^(注3)

その後、それまで取り上げてこなかった中世の作品に用いられた形容詞の使用頻度等を調査すべく、中世の擬古物語、日記・紀行文を取り上げて対照語彙表を作成した。^(注4)

本稿では、さらに中世の作品について調査すべく、これらに続き、中世の随筆・説話文学『徒然草』『方丈記』『発心集』『撰集抄』『十訓抄』の5つを取り上げ、どのような形容詞がどの作品にどれくらい使用されているかが一覧できる形式にて対照語彙表を作成し

*1 むらた なほこ：大阪国際大学国際関係研究所教授〈2016.12.2受理〉

*2 まえかわ たけし：大阪国際大学短期大学部教授

た。

Ⅱ 凡例

[1] 見出し語の配列

歴史的仮名遣いにより五十音順に配列する。

[2] 見出し語形の統一

意味の違いに関係しない読み方・発音の違いは同一語とみなし合併して採る。同一語・別語の認定は『古語大事典』〔小学館〕・『日本国語大辞典』〔小学館〕に拠る。

① 子音交替形または母音交替形

例：ねむたし⇔ねぶたし (m⇔b)

② 撥音の表記に関わるもの

例：やごとなし⇔やむごとなし

③ 促音を挿入したもの

例：にっくし⇔にくし

④ その他

例：ゆきがたし⇔いきがたし

[3] 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を介在させている語および接頭辞が付いた語の扱い

助詞・助動詞（補助動詞を含む）を介在させている語形、および接頭辞が付いた語形は次のように扱った。

(1) 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形が存在する場合は、助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語と合併して採る。

例…つきもなし→つきなし、きよくもなし→きよくなし等。

(2) 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形が存在しない場合は、助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形を仮の語形として設定し立てる。

例…せんかたなし→するかたなし等。

(3) 接頭辞の付いた語の扱い

例…おなごりをし→なごりをし、ごもったいなし→もったいなしのように、接頭辞を外した語形で採る。

[4] 複合語の扱い

名詞+形容詞（例…よふかし・しふしんふかし）や動詞連用形+形容詞（例…をりがたし・はひりにくし）等は切り離さず複合的な単位として認め、一語として扱う方針によって形容詞を選出した。これは、形容詞の造語法として複合語の産出が新語形成の一端を担っている事実を重視したことに拠る。

[5] 漢字

各形容詞の主な意味を表すために適宜振ったもの。

[6] 活用

各見出し語がそれぞれ何活用の形容詞であることを示したものを。

[7] 作品ごとの出現数

各見出し語がそれぞれの作品で出現した数を示したものを。

[8] 既存の八資料における出現状況

各見出し語がどの資料に使われているかを簡潔に示すべく、その見出し語が使われた資料に○を施した。

既存の八資料とは、【上代資料】【訓点資料】【八代集】【中古散文作品】【軍記物語】【今昔物語集】(注1参照)および【擬古物語】【日記・紀行文】(注4参照)を指す。(表中では、下線部で示したもので略記した)

Ⅲ 調査に際して使用した資料

『改訂版徒然草総索引』^(注5)

『広本略本方丈記総索引』^(注6)

『発心集 本文・自立語索引』^(注7)

『撰集抄自立語索引』^(注8)

『十訓抄 本文と索引』^(注9)

【付記】

本稿は、日本学術振興会平成28-30年科学研究費補助金(基盤研究(C)、課題番号16K02746)による研究成果の一部である。

注1 上代から中世の資料を対象にこれまでに作成・公表した語彙表を、対象とした作品および作品群(【 】で囲んだもの、以下同じ)毎に示す。なお、各作品群に含まれる作品は次のとおりである。

【上代資料】

『時代別国語大辞典上代編』に立項されている形容詞のうち、東歌・防人歌に使われている東国語方言の語や複合形容詞中にのみその存在が確認される語を除き、万葉集・古事記(仮名書き部分)・日本書紀(同)・風土記(同)・続日本紀宣命・祝詞に用例のあるものを上代形容詞として認めた。

【中古散文作品】

『竹取物語』『土佐日記』『伊勢物語』『平中物語』『大和物語』『多武峯少将物語』『篁物語』『宇津保物語』『蜻蛉日記』『落窪物語』『和泉式部日記』『枕草子』『源氏物語』『紫式部日記』『堤中納言物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『更級日記』『狭衣物語』『大鏡』『讃岐典侍日記』『とりかへばや物語』

【八代集】

『古今集』『後撰集』『拾遺集』『後拾遺集』『金葉集』『詞花集』『千載集』『新古今集』

【訓点資料】

『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』『神田本白氏文集卷第三・四』『高山寺本古往来』

【今昔物語集】

『今昔物語集』

【軍記物語】

『保元物語』『平治物語』『平家物語』

以下は、作品または作品群毎の語彙表

【中古散文作品】

「中古散文作品における形容動詞対照語彙表」『大阪国際女子大学紀要』26-2 [2001・3]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】

「古代語形容詞の語構成」『大阪国際女子大学紀要』27-1 [2001・9]

「古代語形容詞逆引き対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』16-1 [2002・10]

【訓点資料】

「訓点資料の形容詞の語構成」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』17-1 [2003・10]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】

『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』[2005・11、和泉書院]

【今昔物語集】

「今昔物語集の形容動詞対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』18-2 [2005・1]

「今昔物語集の形容詞対照語彙表—天竺・震旦部—」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』22-3 [2009・3]

「今昔物語集の形容詞対照語彙表—本朝仏法部—」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-1 [2009・10]

「今昔物語集の形容詞対照語彙表—本朝世俗部—」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-2 [2010・1]

【軍記物語】

「軍記物語の形容動詞対照語彙表」『帝塚山学院大学日本文学研究』38 [2007・2]

「軍記物語の形容詞対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』21-3 [2008・3]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】【今昔物語集】【軍記物語】

「改訂・増補 古代語形容詞の語構成—上代～中世編—」『帝塚山学院大学日本文学研究』41 [2010・2]

「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—（前編）」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』24-3 [2011・3]

「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—（後編）」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』25-1 [2011・10]

『『形容詞対照語彙表』補遺』『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-2 [2010・1]

なお、【上代資料】【中古散文作品】【八代集】の形容詞についての語彙表は、村田菜穂子著『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』[2005・11、和泉書院]にも収録している。

注2 これまでの研究成果を、対象とした作品または作品群毎に示す。

【上代資料】

「上代形容詞の語構成」『国語語彙史の研究』20 [2001・3、和泉書院]

【八代集】

「八代集の形容詞—語構成論的考察—」『帝塚山学院大学日本文学研究』32 [2001・2]

「八代集の形容詞—語彙の計量的分析—」『甲南国文』48 [2001・3]

【中古散文作品】

「ゲナリ型形容動詞—造語力拡大の様相について—」『国語語彙史の研究』18 [1999・3、和泉書院]

「平安時代の形容動詞—ゲナリと～カナリ—」『国語学』52-1 [2001・3]

「中古散文の形容詞—語彙の数量的分析—」『表現研究』74 [2001・10]

「古代語形容詞の造語形式—中古散文の形容詞を中心に—」『帝塚山学院大学日本文学研究』33 [2002・2]

「中古散文22作品の類似度の測定」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』21-1 [2007・10]

「中古散文22作品の分類についての一試み」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-3

[2010・3]

「形容詞から見た中古散文二二作品のグループ化についての試み」『国語語彙史の研究』33

[2014・3、和泉書院]

「索引とコーパスを利用した形容詞語彙の採取について」『国語語彙史の研究』34

[2015・3、和泉書院]

【八代集】【中古散文作品】

「中古形容詞における特有語の性格」『帝塚山学院大学日本文学研究』36 [2005・2]

「中古形容詞に見られる複合的方式についての一考察」『国語語彙史の研究』34 [2015・3、

和泉書院]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】

「語構造から見た古代語形容詞一二つの系列一」『帝塚山学院大学日本文学研究』34

[2003・2]

「古代語形容詞の語構造分析についての一考察」『国語語彙史の研究』22 [2003・3、和泉書院]

[2003・2]

「古代語形容詞の階層構造」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』16-2 [2003・3]

「上代形容詞の継承性と中古新出の形容詞」『滋賀大國文』41 [2003・7]

「形容詞・形容動詞語彙の量的構成—中古散文作品を中心に—」『日本語学』25-5 [2006・4]

「形容詞の生産性に関する一考察」『表現研究』86 [2007・10]

「ク活用形容詞とシク活用形容詞の量的性格と語構成」『国語語彙史の研究』28 [2011・3、

和泉書院]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】

「訓点資料の形容詞—語彙の量的性格—」『帝塚山学院大学日本文学研究』35 [2004・2]

「中古形容詞の量的性格—既存の形容詞と新出の形容詞—」『滋賀大國文』42 [2004・7]

『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』[2005・11、和泉書院]

【今昔物語集】

「今昔物語集の形容動詞—語種からの分析を中心に—」『国語語彙史の研究』24 [2005・3、

和泉書院]

「今昔物語集の形容動詞—〜ゲナリと〜カナリ（一）—」『滋賀大國文』43 [2005・7]

「今昔物語集のカナリ型形容動詞」『帝塚山学院大学日本文学研究』37 [2006・2]

【軍記物語】

「軍記物語の形容動詞の一考察」『国語語彙史の研究』26 [2007・3、和泉書院]

「軍記物語の形容詞についての一考察」『国語語彙史の研究』28 [2009・3、和泉書院]

注3 中世後期から近世にかけての言語資料を対象とした研究成果を、対象とした作品または作品群毎に示す。なお、各作品群に含まれる作品は次のとおりである。

【時代別国語大辞典 室町時代編】

『時代別国語大辞典 室町時代編』

【邦訳 日葡辞書】

『邦訳 日葡辞書』

【狂言台本】

『天正狂言本』『虎明本』『虎清本』『狂言六義』『狂言記』

【キリシタン資料】

『天草本平家物語』『エソポのハプラス』『天草本金句集』『コリヤードさんげろく』

以下は、作品または作品群毎の研究成果

【時代別国語大辞典 室町時代編】

「時代別国語大辞典 室町時代編の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』25-2

[2012・1]

【邦訳 日葡辞書】

『邦訳 日葡辞書』の形容詞『大阪国際大学紀要国際研究論叢』26-1 [2012・10]

【狂言台本】

「狂言の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』27-2 [2014・1]

【キリシタン資料】

「キリシタン資料の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』27-3 [2014・3]

【狂言台本】【キリシタン資料】

「狂言・キリシタン資料の形容詞の語構成」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』28-1 [2014・10]

注4 中世の擬古物語、日記・紀行文を対象とした研究成果を、対象とした作品または作品群毎に示す。なお、各作品群に含まれる作品は次のとおりである。

【擬古物語】

『松浦宮物語』『山路の露』『風に紅葉』『木幡のしぐれ』

【日記・紀行文】

『海道記』『東関紀行』『うたゝね』『とはずがたり』『竹むきが記』

以下は、作品または作品群毎の研究成果

【擬古物語】

「擬古物語の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-1 [2015・10]

【日記・紀行文】

「中世の日記・紀行文の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-2 [2016・1]

【擬古物語】【日記・紀行文】

「擬古物語および中世の日記・紀行文の形容詞の語構成」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-3 [2016・3]

注5 時枝誠記編 [1967・6、至文堂]

注6 青木伶子編 [1965・10、武蔵野書院]

注7 高尾稔・長嶋正久編 [1985・3、笠間書院]

注8 安田孝子他編 [2001・2、笠間書院]

注9 泉基博編 [1982・9、笠間書院]

中世の随筆・説話集の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
1				○			○		あいぎやうなし	愛敬無	ク			1		
2				○		○	○	○	あいなし	愛	ク	5			2	
3		○	○	○	○	○	○	○	あかし	赤	ク	2	1	2	3	
4		○	○	○	○	○	○	○	あかし	明	ク			4	5	2
5									あがりかたし	上難	ク					1
6	○		○	○	○	○			あきりけし	明	ク			2		
7	○	○	○	○	○	○	○	○	あさし	浅	ク	3		19	11	10
8			○	○	○	○	○	○	あさまし	浅	シク	12	1	16	26	28
9	○		○	○	○	○	○	○	あし	悪	ク	18		21	38	13
10		○	○	○	○	○	○	○	あたらし	新	ク			5	3	
11		○	○	○	○	○	○	○	あたらし	惜	シク					1
12			○	○	○	○	○	○	あぢきなし	味気無	ク	2	2	2	2	4
13	○	○	○	○	○	○	○	○	あつし	厚・敦	ク		1	2	3	3
14	○	○	○	○	○	○	○	○	あつし	暑・熱	ク	1		2		
15				○	○	○			あとかたなし	跡方無	ク					3
16			○	○			○	○	あとなし	跡無	ク			2		10
17				○			○		あなづらはし	魚臭	ク				1	
18		○		○		○			あはし	淡	ク	1				
19		○	○	○		○		○	あひがたし	逢難	ク			3		
20				○	○		○	○	あへなし	敢無	ク			1	3	2
21		○		○					あまし	甘	ク		1			
22	○	○	○	○	○	○	○	○	あまねし	遍・普	ク		1		4	7
23	○	○	○	○	○	○	○	○	あやし	靈異・奇・怪	シク	16	2	72	24	15
24			○	○		○	○	○	あやなし	恨無	ク				2	9
25		○	○	○	○	○	○	○	あやふし	危	ク	5	2	5	3	
26				○					あらあらし	荒荒	シク	2				
27					○				あらけなし	荒気	ク					1
28	○	○	○	○	○	○	○	○	あらし	荒	ク				3	1
29				○					あらためがたし	改難	ク	1				
30									あらはれがたし	顕難	ク					1
31	○			○	○	○	○	○	ありがたし	有難	ク	11		19	15	57
32				○					ありにくし	有難	ク		1			
33				○	○		○	○	あわたたし	慌	シク	2				
34	○	○		○	○	○	○	○	あをし	青	ク	2		3	5	
35				○	○	○	○		いかめし	厳	シク	1		2	2	1
36				○		○			いきがたし	行難	ク			1		
37				○	○				いくほどなし	幾程無	ク					1
38	○	○					○		いさぎよし	潔	ク	2		4	2	6
39				○					いさまし	勇	シク	1				
40					○				いし	美	シク			2		
41		○			○		○	○	いそがはし	忙	シク	1				
42	○	○	○	○	○	○	○	○	いたし	痛・甚	ク	12		12		34
43									いたづがはし	労	シク	1				
44	○	○		○	○		○	○	いたはし	労	シク		1	1		
45					○	○		○	いたまし	痛悼	シク	3		1	1	
46						○			いたみなし	痛無	ク					1
47									いたりやすし	至易	ク			1		
48							○		いづくともなし		ク					3

国際研究論叢

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
49									いづちともなし		ク					8
50				○		○			いでがたし	出難	ク	1				
51		○	○	○	○		○	○	いとけなし	幼	ク	3	1	7		15
52	○		○	○		○		○	いとはし	厭	シク			1		
53	○		○	○	○	○	○	○	いとほし	勞・愛	シク			11		17
54		○	○	○		○	○	○	いとまなし	暇無	ク					1
55				○		○			いなびがたし	否難	ク	1		1		
56								○	いはれなし	謂無	ク			1		
57					○				いひかひなし	言甲斐無	ク			4		
58	○	○		○		○			いふかし	不審	シク	2		1		
59				○		○	○	○	いふかたなし	言方無	ク					4
60				○	○	○	○	○	いふかひなし	言甲斐無	ク			9	6	
61	○		○	○	○		○	○	いぶせし	鬱	ク	1		5		6
62				○					いふはかりなし	言計無	ク			6		1
63				○	○	○	○	○	いまいまし	忌忌	ク				1	
64				○	○	○	○	○	いまめかし	今	シク	1				
65				○	○	○	○	○	いみじ		ク	41	1	64	95	44
66	○	○	○	○	○	○	○	○	いやし	賤・卑	シク	9	1	13	18	7
67									いらいらし	苛苛	シク				1	
68	○			○					いらなし	楚・苛	ク	1				
69									いろいろし	色色	シク				1	
70									うかががたし	浮難	ク					1
71			○			○			うけがたし	受難	ク			3		
72	○		○	○	○	○	○	○	うし	憂	ク	11	1	5	5	19
73									うしなひやすし	失易	ク	1				
74			○	○	○	○	○	○	うしろめたし	後不安	ク				1	
75			○	○		○		○	うしろめたなし	後不安	ク			1	1	1
76			○	○		○			うしろやすし	後安	ク			1		
77	○	○	○	○	○	○	○	○	うすし	薄	ク	1		3		3
78	○	○	○	○	○	○	○		うたがはし	疑	シク			2		
79				○	○	○	○		うたがひなし	疑無	ク			10		
80				○	○		○	○	うたてし		ク			1		4
81	○		○	○	○	○	○	○	うつくし	愛・美	シク	1		4	2	4
82		○			○	○			うつたかし	堆	ク	1				
83									うつつごころなし		ク					3
84				○	○		○		うとうとし	疎疎	シク			1		
85		○	○	○	○	○	○	○	うとし	疎	シク	7		7	4	
86			○	○	○	○	○	○	うとまし	疎	シク	4		1		
87				○			○		うひうひし	初初	シク				1	
88	○					○			うまし	旨・甘・美・味	ク			2		1
89	○				○				うやうやし	恭	シク	2				
90			○	○			○	○	うらなし	心無	ク	1				
91	○		○	○	○		○	○	うらめし	恨・慍	シク	1		8	6	1
92			○	○	○	○	○	○	うらやまし	羨	シク	4		3	2	17
93				○		○	○	○	うるさし		ク	2		4		2
94				○		○			うるせし		ク				2	4
95	○	○		○	○	○	○	○	うるはし	麗・美	シク	3		13	7	4
96	○		○	○	○	○	○	○	うれし	嬉・歎	シク	8		14	11	22

中世の随筆・説話集の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
97			○	○					うれはし	憂	シク			2		
98		○		○		○			えがたし	得難	ク	1		2		
99									えだよし	枝良	ク				1	
100		○	○	○				○	おきどころなし	置所無	ク					1
101						○			おこたりなし	怠無・緩無	ク					1
102					○		○	○	おさへがたし	抑難	ク			1		
103	○	○	○	○	○	○	○	○	おそし	遅・鈍	ク	3		10	9	5
104			○	○	○	○	○	○	おそろし	恐	シク	6	1	11	8	8
105				○	○		○		おだし	穩	シク				1	
106				○	○	○	○	○	おとなし	音無	ク			1		
107				○	○	○	○	○	おとなし	大人	ク	5			3	
108	○			○		○	○	○	おどろおどろし		シク	1				2
109	○	○	○	○	○	○	○	○	おなじ	同	ク	19	5	35	76	40
110			○	○	○	○			おほけなし		ク			2		
111	○	○	○	○	○	○	○	○	おほし	多・大	シク	80	9	71	50	71
112				○	○	○	○	○	おほし	思	シク	1		3	2	
113	○		○	○	○	○	○	○	おほづかなし		ク	11		20	7	5
114	○	○	○	○	○	○	○	○	おもし	重	ク	7	2	29	27	7
115	○		○	○	○	○	○	○	おもしろし	面白	ク	9		4	14	28
116			○	○	○	○	○		おもはし	思	シク				3	1
117				○		○			おもひがたし	思難	ク			1		
118				○					おもひすてがたし	思捨難	ク	1				1
119									おもひやすし		ク			1		
120									おもふことなし	思事無	ク					1
121									おもふばかりなし	思計無	ク					1
122				○	○		○	○	およびがたし	及難	ク			3		1
123		○		○	○	○	○	○	かうばし	香	シク	1		6	7	3
124		○	○	○	○	○	○	○	かぎりなし	限無	ク			27	11	3
125			○	○	○	○	○	○	かくれなし	隠無	ク			4		
126			○	○			○		かごとがまし	託言	シク	1				
127			○	○	○	○	○	○	かしかまし	囂	シク	1			2	
128	○	○	○	○	○	○	○	○	かしこし	恐・畏・賢	ク	9	1	20	19	22
129	○	○	○	○	○	○	○	○	かたし	固・堅	ク			2	3	2
130	○	○	○	○	○	○	○	○	かたし	難	ク	7		23	57	11
131	○	○		○	○	○	○	○	かたじけなし	辱・忝	ク			10	5	29
132	○					○			かたなし	穢陋	ク					3
133									かたのごとし	形如	ク					9
134				○	○	○	○	○	かたはらいたし	傍痛	ク	3		1		1
135				○					かたはらさびし	傍寂	ク			1		
136									かたまし	肩全	ク					2
137	○	○	○	○	○	○	○	○	かなし	門無	ク	6		30	15	75
138				○	○	○		○	かなひがたし	適難	ク			1		1
139									かなひやすし	叶易	ク			1		
140				○		○	○	○	かはゆし		ク	1		1		3
141				○	○		○		かひがひし	甲斐甲斐	シク				1	1
142			○	○	○	○	○	○	かひなし	甲斐無	ク			7		12
143				○					かへにくし	換難	ク	1				
144		○			○	○		○	かまびすし	喧	ク		1			

国際研究論叢

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
145	○		○	○	○	○	○	○	からし	辛・鹹・酷	ク	4		1		
146	○			○	○				かるし	軽	ク				3	
147		○		○	○		○		かるがろし	軽軽	シク	1			2	
148		○		○	○	○	○	○	かろし	軽	ク	5	1	4	4	
149									きいろし	黄色	ク			1		
150				○					きえやすし	消易	ク			1		1
151			○	○		○			ききがたし	聞難	ク			1		
152									ききどほし	聞遠	ク			1		
153				○		○	○		ききにくし	聞難	ク	5				
154	○		○	○	○	○	○		きたなし	汚穢・濁・穢	ク	2			2	3
155									きはなし	際無	ク					3
156		○		○		○		○	きはまりなし	極無	ク			1		
157		○							きはめがたし	極難	ク			1		
158		○		○	○	○	○	○	きびし	厳・密	シク	2		1	2	
159									ぎやうじがたし	行難	ク	2				
160	○	○	○	○	○	○	○	○	きよし	清	ク	2		3		10
161	○			○		○	○	○	きらきらし	端正	シク	1		1		
162									くさがくれなし	草隠無	ク					5
163		○	○	○		○		○	くさし	臭	ク		1	1		1
164									くさふかし	草深	ク					1
165									くだけやすし	碎易	ク	1				
166									くちきたなし	口穢	ク			1		
167				○		○			くちとし	口疾	ク				3	
168									くちやすし	口易	ク			1		
169				○	○	○	○	○	くちをし	口惜	シク	11		14	11	9
170	○	○		○	○	○	○	○	くはし	妙・細・詳	シク	1		5		12
171			○	○	○		○	○	くまなし	隅無	ク			5	5	
172									くもまなし	雲間無	ク					1
173	○		○	○	○	○	○	○	くやし	悔	シク	1		6	5	4
174	○	○	○	○	○	○	○	○	くらし	暗	ク	5		8	8	3
175	○	○	○	○	○	○	○	○	くるし	苦	シク	7	2	14	5	10
176	○	○	○	○	○	○	○	○	くろし	黒	ク	1	1	1	3	1
177						○			けあし	気悪	シク					3
178				○	○	○	○	○	けうとし	気疎	ク	1		2		1
179	○	○				○	○	○	けがらはし	汗穢・穢	シク			6		1
180									けげし		シク			1		
181	○			○	○	○	○	○	けし	異・怪	シク	1				13
182				○	○	○	○	○	けだかし	気高	ク			1		8
183									けたたまし		シク					1
184							○		げにげにし	実実	シク	2		5	1	1
185		○		○	○	○		○	けはし	険	シク			3		2
186						○			けむつかし	気難	シク				1	
187				○		○	○	○	けやけし	異	ク	1				
188				○	○	○		○	こぐらし	小暗	ク					2
189				○					こちよし	心地良	ク					1
190				○					こころあし	心悪	シク				1	
191				○	○	○	○	○	こころうし	心憂	ク			16	9	16
192									こころうるはし	心麗	シク				2	

中世の随筆・説話集の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
193				○		○	○		こころえがたし	心得難	ク	1		4		
194				○		○			こころかこし	心賢	ク			2		
195			○	○					こころかるし	心軽	ク				1	
196									こころきよし	心清	ク				1	
197	○			○	○	○	○	○	こころぐるし	心苦	シク	2		5		3
198									こころごはし	心強	ク				1	
199				○		○	○	○	こころすごし	心凄	ク				1	6
200									こころだかし	心高	ク				1	
201									こころたけし	心猛	ク				2	
202									こころちひさし	心小	ク					2
203				○		○	○	○	こころづきなし	心付無	ク			2	6	
204		○							こころつたなし	心拙	ク				1	
205			○	○			○		こころながし	心長	ク				1	1
206	○	○	○	○	○	○	○	○	こころなし	心無	ク				2	8
207				○	○	○	○	○	こころにくし	心憎	ク			3	2	1
208			○	○	○		○		こころふかし	心深	ク					3
209			○	○	○	○	○	○	こころぼそし	心細	ク	5		5	10	2
210				○	○				こころみじかし	心短	ク				1	
211			○	○	○	○	○	○	こころもとなし	心許無	ク	1		3	2	3
212			○	○	○	○	○	○	こころやすし	心安	ク			5	2	1
213		○		○	○	○	○	○	こころよし	快	ク			1	3	2
214									こころよろし	心宜	シク					1
215			○	○	○	○	○	○	こころよわし	心弱	ク			2	1	2
216									こころわるし	心悪	ク			1		
217								○	こころわるし	心悪	ク				1	
218									こごかし	小賢	シク				1	
219			○	○	○	○	○	○	こし	濃	ク	2				1
220	○			○			○	○	こちたし	言痛・事痛	ク	2				1
221				○	○			○	こちなし	骨無	ク					1
222									ことうるはし	事美	シク			2	3	
223			○	○		○	○	○	ことごとし	事事	シク	7		2		
224			○	○	○			○	ことしげし	言繁・事繁	ク			2		
225	○	○	○	○	○	○	○	○	ことなし	事無	ク			2		
226									ことよろし	事良	シク			4	2	
227				○		○	○		このもし	好	シク			1		
228	○	○		○	○		○	○	こはし	強	ク	3		2	1	
229	○		○	○	○	○	○	○	こひし	恋	シク	4		5	5	9
230				○		○	○	○	こよなし		ク	2			3	
231				○		○	○		さうざうし		シク	2			1	
232				○	○	○	○		さうなし	左右無・双無	ク			2	5	
233	○	○		○		○	○	○	さかし	賢	シク	1		2		
234	○	○		○	○	○	○		さがし	険・峻	シク					5
235									ささいなし		ク				1	
236			○	○		○			さだめがたし	定難	ク	3		1		
237			○	○	○	○	○	○	さだめなし	定無	ク					5
238	○			○		○			さとし	聡	ク	1			1	
239		○							さとりやすし	悟安	ク			1		
240	○		○	○	○		○	○	さびし	寂・淋	シク	2	1	1		1

国際研究論叢

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
241			○						さむけし	寒	ク	1				
242	○	○	○	○	○	○		○	さむし	寒	ク	5		3	3	14
243				○	○	○		○	さりがたし	去難・避難	ク	2	1	6		7
244			○	○	○	○	○	○	さりげなし	然気無	ク			3	3	
245								○	さりどころなし	避処無	ク			1		
246			○	○	○	○	○	○	さわがし	騒	シク	1	1	1		
247	○	○	○	○	○	○	○	○	しげし	繁・茂	ク	5	2	3		8
248		○		○	○	○	○	○	したし	親	シク	1		8	4	3
249					○				したはし	慕	シク	1				
250			○	○		○			しづごころなし	静心無	ク					1
251				○					しづまりがたし	鎮難	ク			1		
252								○	しのばし	憊憊	シク					2
253			○	○	○	○	○	○	しのびがたし	忍難	ク	2				2
254								○	じひふかし	慈悲深	ク					2
255									じゅつなし	術無	ク				4	
256									しらしらし	白白	シク					1
257		○		○	○	○			しりがたし	知難	ク	1		3		1
258	○		○	○	○	○	○	○	しるし	知・灼・著	ク		1	2		
259	○	○	○	○	○	○	○	○	しろし	白	ク	10		8	7	4
260				○		○		○	すぎがたし	過難	ク			1		1
261									すぎやすし	過易	ク					1
262	○	○	○	○	○	○	○	○	すくなし	少	ク	6	1	15	15	4
263			○	○	○		○	○	すごし	凄	ク				1	2
264		○	○	○	○	○	○	○	すさまし	凄	シク	5		1		2
265	○	○	○	○	○	○	○	○	すずし	冷・涼	シク	2		1	1	3
266				○		○			すずろはし	漫	シク			1		
267									すぢなし	筋無	ク					1
268				○		○			ずちなし	術無	ク			1		
269		○		○		○	○	○	すてがたし	捨難	ク	3	1	4		5
270									すばし	窄	シク		1			
271			○	○					すみがたし	住難・澄難	ク					1
272				○		○			すみにくし	住難	ク			2		1
273			○	○	○	○	○	○	するかたなし	為方無	ク					4
274				○				○	せし	狭	ク	3				
275	○	○	○	○	○	○	○	○	せばし	狭	ク	3	3			
276					○		○	○	せんなし	詮無	ク			1	2	
277				○	○		○	○	そこはかとなし		ク			2		2
278									そのこととなし	其事無	ク					16
279				○	○	○	○	○	そらおそろし	空恐	シク			1		
280									だうしんふかし	道心深	ク					4
281									たえだえし	絶絶	シク			2	1	
282	○	○	○	○	○	○	○	○	たかし	高	ク	10	2	24	33	4
283			○	○		○	○	○	たぐひなし	類無	ク			7		3
284	○		○	○	○	○	○	○	たけし	武・猛	ク	2		3	4	1
285		○							たけたかし	長高・丈高	ク				1	
286		○		○	○	○	○	○	ただし	正	シク	3		1	3	
287				○				○	たづきなし	方便無	ク					1
288	○								たづたづし		シク			1		

中世の随筆・説話集の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
289				○			○	○	たどたどし		シク			1		
290				○		○			たとふるかたなし	譬方無	ク					1
291				○					たとへなし	譬無	ク					6
292									たにふかし	谷深	ク					1
293									たねんなし	他念無	ク			2		
294	○	○	○	○	○	○	○		たのし	楽	シク	2		2		2
295	○		○	○	○	○	○	○	たのもし	頼	シク	2		15	3	7
296	○	○		○	○	○	○	○	たふとし	貴・尊	ク	13		53	10	73
297		○		○	○	○	○	○	たへがたし	堪難	ク	3		5		2
298									たもちがたし	保難	ク			1		
299	○	○		○	○	○	○	○	たやすし	輒・容易	ク	6	1	3	5	
300	○		○	○					たゆし	弛	ク		1			
301			○	○		○	○		たゆみなし	弛無	ク			2	1	
302				○	○	○		○	たよりなし	便無	ク			3		2
303	○	○	○	○	○	○	○	○	ちかし	近	ク	20	7	58	24	12
304				○					ちかぢかし	近近	シク			1		
305		○		○	○	○	○	○	ちからなし	力無	ク			2		9
306	○	○		○	○	○	○	○	ちひさし	小	ク	3	2	6	5	3
307			○					○	つきがたし	尽難	ク			1		
308									つきがたし	継難	ク					1
309				○		○	○	○	つきづきし	付付	シク	3			2	1
310		○							つくしがたし	尽難	ク					3
311	○	○	○	○	○	○		○	つたなし	怯・拙	ク	10	1	14	5	14
312	○					○			つつがなし	無恙・無事	ク				2	1
313			○	○		○	○	○	つつまし	慎	シク			1		2
314								○	つなぎがたし	繫難	ク			1		
315	○	○	○	○			○		つねなし	常無	ク			1		5
316		○				○			つみなし	罪無	ク					2
317				○	○				つみぶかし	罪深	ク			11		3
318			○	○	○	○	○	○	つゆけし	露	ク				1	2
319									つゆしげし	露繁	ク					1
320	○	○	○	○	○	○	○	○	つよし	強	ク	4		10	5	3
321	○			○	○	○	○	○	つらし	辛	ク			1	3	3
322			○	○	○	○	○	○	つれなし	無情	ク	1		3	5	5
323						○			とげがたし	遂難	ク			2		
324			○	○	○	○	○	○	ところせし	所狭	ク					5
325	○	○	○	○	○	○	○	○	とし	利・敏・疾	ク	8	1	10		
326									としかし	年高	ク			8		
327									としひさし	年久	シク					6
328									ととのほりがたし	調難	ク			1		
329		○							とどまりがたし	留難	ク					1
330	○	○	○	○	○	○	○	○	とほし	遠	ク	10	3	12	8	9
331			○	○				○	とめがたし	止難	ク					1
332	○	○		○	○	○			ともし	乏	シク	2	4	5	2	4
333	○	○	○	○	○	○	○	○	ながし	長	ク	11		6	14	20
334					○		○	○	なごりをし	名残惜	シク					1
335				○	○	○	○	○	なさけなし	情無	ク			8		8
336				○	○				なさけふかし	情深	ク	1		3		

国際研究論叢

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
337	○	○	○	○	○	○	○	○	なし	無	ク	305	44	362	350	141
338			○	○			○	○	なだかし	名高	ク			1		2
339	○		○	○	○		○	○	なつかし	懐	シク	4		1	1	5
340				○			○	○	なにごころなし	何心無	ク					1
341				○	○		○	○	なにとなし	何無	ク			4	11	34
342									なびきやすし	靡安	ク			2		
343		○		○			○	○	なほし	直	ク				3	
344		○		○			○	○	なほし	直	シク				5	
345				○				○	なまさかし	生賢	シク			1		
346				○		○	○		なまめかし	艶	シク	5				
347				○		○	○	○	なやまし	悩	シク			3		1
348		○		○	○	○	○		ならびなし	並無・双無	ク			3	3	4
349		○		○		○			なりがたし	成難	ク			1		1
350									なれがたし	馴難	ク					1
351				○		○			なれなれし	馴馴	シク	1				
352					○		○	○	にがにがし	苦苦	シク				1	
353				○		○		○	にぎははし	賑	シク	1				
354	○		○	○	○	○	○	○	にくし	憎	ク	18			6	3
355									にくらし	憎	シク			1		
356				○		○			にぶし	鈍	ク	2				
357				○				○	ねがはし	願	シク	2				1
358	○		○	○	○	○	○		ねたし	嫌・妬	ク	1		2		
359			○	○	○		○	○	ねぶたし	眠	ク	1				
360				○	○	○	○	○	のがれがたし	遁難	ク	1		3		
361			○	○		○	○	○	のこりなし	残無	ク			1		
362									のぞみなし		ク					1
363			○	○	○		○	○	のどけし	長閑	ク	1	1			
364		○							のべがたし	述難	ク					3
365			○	○	○	○	○	○	はかなし	果無・果敢無	ク	5	1	23	15	40
366				○	○	○	○	○	はかばかし	抄抄	シク	3	1	4	4	5
367					○				はからひがたし	計難	ク			2		
368		○			○	○			はかりがたし	量難	ク			3		
369						○			はかりなし	計無・量無	ク					1
370		○	○	○	○	○	○	○	はげし	激・烈	シク		2	4	2	9
371				○	○	○	○	○	はしたなし	端	ク			5	1	
372				○	○				はちがまし	恥	シク	1			2	
373	○		○	○	○	○	○	○	はづかし	恥	シク	7		3	6	
374								○	はてしなし	果無	ク					4
375			○			○			はてなし	果無	ク					1
376		○		○	○				はなはだし	甚	シク	3	2	3		3
377			○	○			○	○	はなれがたし	離難	ク					3
378									はなれやすし	離易	ク			1		
379	○	○	○	○	○	○	○	○	はやし	早・速	ク	7		21	14	13
380				○	○	○			はらあし	腹悪	シク			1	1	
381				○	○				はらぐろし	腹黒	ク				3	
382				○		○			はらだたし	腹立	シク				1	
383				○			○	○	ひがひがし	僻僻	シク	1				
384	○	○	○	○	○	○	○	○	ひさし	久	シク	14	3	25	21	6

中世の随筆・説話集の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
385		○	○	○		○	○		ひとし	等・斉	シク	6			6	6
386									ひとどほし	人遠	ク	1				
387				○		○	○		ひとびとし	人人	シク			1		
388			○	○	○	○	○	○	ひまなし	隙無・暇無	ク			7		1
389	○	○	○	○	○	○	○	○	ひろし	広	ク	3	1	4	6	
390		○	○	○	○	○	○	○	びんなし	便無	ク			4	1	
391	○	○	○	○	○	○	○	○	ふかし	深	ク	21	7	139	65	59
392			○	○	○	○			ふたごころなし	二心無	ク			6		1
393			○	○		○			ふたつなし	二無	ク					1
394	○	○		○	○	○			ふとし	太	ク				1	
395	○	○	○	○	○	○	○	○	ふるし	古・旧	ク	14		7	10	6
396			○	○		○	○		ふるめかし	古	シク	1		1		2
397				○	○	○	○	○	ほいなし	本意無	ク			10		2
398						○			ほうじがたし	報難	ク			1		
399	○		○	○	○	○	○	○	ほし	欲	シク			5	1	1
400	○	○		○		○	○	○	ほそし	細	ク	3			3	4
401				○				○	ほどどほし	程遠	ク					1
402		○	○	○	○	○	○	○	ほどなし	程無	ク			4	10	5
403			○	○		○			ほとほとし	殆	シク			1		
404									ほりすてがたし	掘捨難	ク	1				
405									まうすはかりなし	申計無	ク			1		
406									まうでやすし	詣易	ク			1		
407				○	○		○	○	まことし	実	シク	5				1
408		○	○	○	○	○	○	○	まさし	正	シク	3		10	5	7
409	○	○		○	○	○			またし	全・完	ク	3	1		2	
410				○	○	○	○		またなし	又無	ク					2
411	○		○	○	○	○			まちかし	間近	ク			5		
412	○	○		○		○	○	○	まづし	貧・貧窮	シク	9	2	19	10	10
413									まどひやすし	惑易	ク	1				
414				○			○		まばゆし	眩	ク	2				
415									まめやかし	実	シク			1		
416				○	○				まろし	円	ク	1				
417				○	○	○	○	○	みぐるし	見苦	シク	9		3	6	1
418	○	○	○	○	○	○	○	○	みじかし	短	ク		1	4	2	1
419				○		○			みずぐしがたし	見過難	ク	1		1		5
420				○		○	○	○	みすてがたし	見捨難	ク			1		1
421		○		○		○	○		みだりがはし	乱猥	シク				2	
422									みだれやすし	乱易	ク			2		1
423	○			○	○	○	○		みにくし	見難・醜	ク	9				
424				○					みみちかし	耳近	ク			2		
425					○				みめよし	見目良	ク					1
426									みやうもんぐるし	名聞苦	シク	1				
427				○					みわきがたし	見分難	ク					1
428				○		○	○	○	むくつけし		ク			1		
429									むくつけなし		ク			1	1	
430				○		○	○	○	むつかし	難	シク	5			4	4
431	○	○	○	○	○	○	○	○	むつまし	親・睦	シク	1				9
432	○	○	○	○	○	○	○	○	むなし	空・虚	シク	3	3	1	7	38

国際研究論叢

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
433									むまれがたし	生難	ク			2		
434									むらなし	斑無	ク					3
435				○		○	○		めざまし	目覚	シク			2	2	
436							○	○	めだたし	目立	シク			1	1	
437	○		○	○	○	○	○	○	めづらし	珍	シク	12		5	5	
438			○	○	○	○	○	○	めでたし	愛目出	ク	18		36	38	36
439				○		○	○		めやすし	目安	ク				3	
440				○	○				めんぼくなし	面目無	ク			1		
441									もだしがたし	黙難	ク	1				
442			○	○	○		○	○	もどかし	擬・抵悟	シク				1	
443			○	○	○	○	○	○	ものうし	物憂	ク		2	1	1	10
444				○					ものうとし	疎	ク	1				
445				○		○	○		ものおそろし	物恐	シク				1	
446	○			○	○		○	○	ものがなし	物悲	シク			1	1	1
447				○		○	○		ものきよし	物清	ク			1		
448									ものぐさし	懶	ク				1	
449				○	○	○			ものぐるはし	物狂	シク	1		2		1
450				○	○		○	○	ものさびし	物寂	シク			1		2
451				○	○	○	○	○	ものさわがし	物騒	シク	2		1	1	8
452									もののけめかし		シク			1		
453									ものほし	物欲	ク			1		
454				○					ものめかし	物	シク			1		
455	○		○	○	○		○	○	もろし	脆	ク			1		3
456						○	○	○	やくなし	益無	ク			2	1	
457	○		○	○	○	○	○	○	やさし	恥・優	シク	4		2	15	4
458	○	○	○	○	○	○	○	○	やすし	安・易	ク	15	7	28	18	7
459									やぶれやすし	破易	ク			1		1
460				○					やまふかし	山深	ク					9
461									やみふかし	闇深	ク			1		
462		○		○	○	○	○		やむごとなし	止事無	ク	14	1	15	8	8
463									やめがたし	止難	ク	1				
464				○	○	○	○		やるかたなし	遣方無	ク					13
465			○	○	○	○	○	○	ゆかし		シク	5		3	1	37
466				○					ゆきすぎがたし	行過難	ク					1
467									ゆくすゑなし	行末無	ク					3
468			○	○			○	○	ゆくへなし	行方無	ク					2
469									ゆめがまし	夢	シク			1		
470	○		○	○	○	○	○	○	ゆゆし	齋忌・忌	シク	6		5	18	18
471							○		ゆるぎなし	揺無	ク			1		
472		○		○					ゆるし	緩	ク	3		2		1
473									よきりなし	過無	ク					1
474	○	○	○	○	○	○	○	○	よし	良・好・善	ク	109	2	30	76	13
475		○		○	○	○	○	○	よしなし	由無	ク			18	13	15
476			○	○	○	○	○	○	よぶかし	夜深	ク	2				
477									よみやすし	誦易	ク			1		
478								○	よるかたなし		ク					1
479	○	○		○	○	○	○	○	よろし	宜	シク	1	1	2	8	
480	○		○	○	○	○	○	○	よわし	弱	ク	3		5		1

中世の随筆・説話集の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	日記	見出し語	漢字	活用	徒然草	方丈記	発心集	撰集抄	十訓抄
481									よわよわし	弱弱	シク			1		
482				○			○		らうがはし	乱	シク	1				
483				○	○	○	○		らうたし	勞甚	ク	1				2
484									らうめかし	廊	シク				1	
485	○	○	○	○	○	○	○	○	わかし	若	ク	20		22	17	3
486				○				○	わきがたし	分難	ク					1
487									わくかたなし	分方無	ク					10
488			○	○		○	○	○	わすれがたし	忘難	ク	4		3		
489		○	○	○	○	○	○	○	わづらはし	煩	シク	5		2	3	2
490	○		○	○		○	○	○	わびし	侘	シク	6		3	4	
491			○	○	○	○	○		わりなし	理無	ク	3		11	4	7
492				○	○				わるし	悪	ク					1
493		○		○	○	○	○	○	わろし	悪	ク	11			3	1
494				○					ゑまし	笑	シク				1	
495				○	○	○	○	○	をかし	可笑・可笑	シク	40		2	20	4
496				○	○	○	○		をこがまし	痴	シク	3			4	
497				○	○	○	○	○	をさなし	幼	ク	4		16	3	4
498	○	○	○	○	○	○	○	○	をし	惜・愛	シク	4		2	5	5
499				○					をりあし	折悪	シク			1		
500				○					をりよし	折良	ク			1		

